

第6章 史跡の保存・活用の基本理念と基本方針

第1節 基本理念

高遠城跡は戦国時代から明治時代初期の廃城に至るまで、領主や時代の変化と共に形を変えながら、数百年にわたり伊那谷北部(上伊那地域)の政治の中心となり、文化・経済を牽引^{けんいん}してきました。廃城後に建物や樹木等が取り払われた城跡は、時を経ずに新たに公園として生まれ変わり、地域の人々が主体となった公園づくりが行われてきました。

長い歴史の中で多くの人に関わってきた結果が、城郭としての景観と美しいサクラの景色が混ざり合う、独特な景観を生み出し、多くの人に愛されています。

城と城跡の歴史が育んだ景観、双方の背景にある価値を正しく理解し、後世に伝え、これからも地域に愛され、地域を誇れる場所として存続できるよう、前章に挙げた課題を克服し、史跡高遠城跡が目指す将来の姿を、基本理念として以下のとおり定め、これからの保存活用を推進します。

「史跡高遠城跡」の歴史と文化を未来につなぐ

- ・ 史跡高遠城跡を将来にわたり確実に保存し、活用と整備を進め、次世代に継承します。
- ・ 城郭としての歴史的価値を踏まえ、近代以降の文化的景観との調和を図りながら、その活用を図ります。

第2節 基本方針

基本理念を実現するための方針を、以下のとおり定めます。

1 保存管理

- ・ 史跡内を区域分け(ゾーニング)した上で、地区ごとの保存方針及び方法を定め、これに基づいた保存管理を進めます。
- ・ 史跡の保存管理や整備、活用を推進するため、伊那市が史跡の管理団体指定を目指します。
- ・ 土地所有者と史跡保存活用の理念や具体方法の共有をし、保存管理に万全を期す

とともに、理解を得ながら公有化を進めます。

- ・遺構を把握するための継続的な調査研究を行い、史跡の本質的価値の深化を進めるとともに、適切な保存の手法を検討し、本質的価値を損なうことがないよう保存管理を行います。
- ・史跡の本質的価値を損なうことなく、高遠のコヒガンザクラ樹林と周辺のサクラを維持するための手法を検討し、地区ごとの保存方針に基づいた史跡とサクラの共存を目指します。
- ・防災対策の実施とともに、日常的な維持管理や細目な観察を通して、史跡の破損につながるような変化を早期に把握し、修理や整備につなげます。

2 活用

- ・史跡を訪れた人が地域の歴史を正しく理解できるような、本質的価値を活かした学びの場としての活用を図ります。
- ・史跡の保存との両立を図りながら、歴史の重層性が生み出した文化的景観に親しみ、市民が集う憩いの場や地域振興、観光の拠点としての活用を図ります。
- ・活用を通じて、史跡の保存に対する理解を深め、次世代への継承に向けた機運を醸成します。

3 整備

- ・史跡の本質的価値を損なわないよう、早急な対応が必要な箇所の保存修理工事を行います。
- ・調査研究や公有化の進展に合わせて、既存計画の整備項目の見直しを行い、新たな整備基本計画を策定します。計画内容に沿って、保存管理や活用に必要な整備事業を実施します。
- ・調査研究の成果に基づいた整備を目指します。

4 運営・体制の整備

- ・高遠城跡を保存活用し、確実に後世に引き継ぐため、土地所有者や地域住民、諸団体、行政内各部局との連携、協働が円滑に進む体制づくりを行います。